

# Part 5

## 「てんてん旅行に行く」の巻

今日は、おばあちゃんが生まれ育った和歌山県に旅行です。

「ぼうさい」の勉強になるからって記念館にも連れていってくれたよ♪

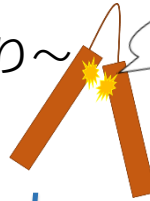




さっきも言ったように「稲むらの火」は津波のお話なのよ。もう少し詳しく話してあげましょう。

お話はじまり～、はじまり～

カーン、カン、カン、カン、カン……



むかーし、むかし、

わかやまけん 和歌山県のある村での

お話です。

てんてんのおばあちゃん  
静岡 いち子 (しずおか いちご)

# 稲むらの火



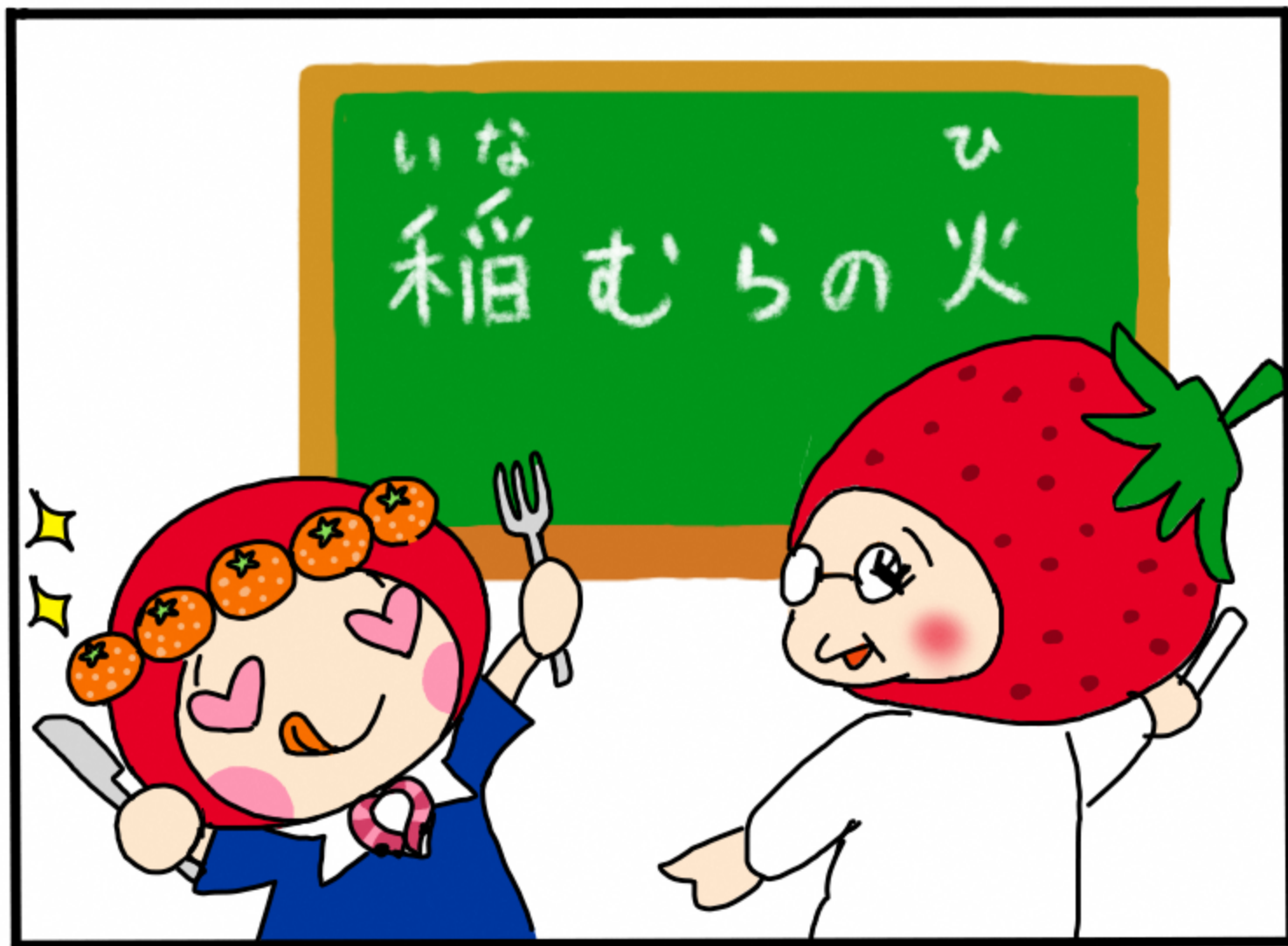
「ただごとではない。」高台に住む庄屋の五兵衛はつぶやきました。  
今の地震は、べつにはげしいというほどのものではありませんでした。  
しかし、長いゆったりとしたゆれ方と、うなるような地鳴りは、老いた五兵衛にとって不気味でした。  
村では祭りのじゅんびが行われ、村人は地震に気付いていないようす。  
五兵衛が海を見ると潮が引いて、広い砂原や黒い岩底があらわれてきました。それを見て津波が来ると思った五兵衛は、取り入れるばかりになっていた稲むらに、つぎつぎと火をつけていきました。  
村人は、この火を消そうと急いで山へかけつけます。  
五兵衛は、あつまった村人をかぞえ、「見ろ。やってきたぞ。」と力いっぱいの声でさげびました。  
村人は、二度三度、村の上をおそってくるおそろしい海を見ました。あたりを明るくした稲むらの火で村人は、われにかえり、五兵衛が放ったこの火に、命をすくわれたことに気付いたのでした。

※ この津波があった11月5日を「津波ぼうさいの日」とすることが定められました。  
また、津波は引き潮から始まるとは、かぎらない点にちゅういです！

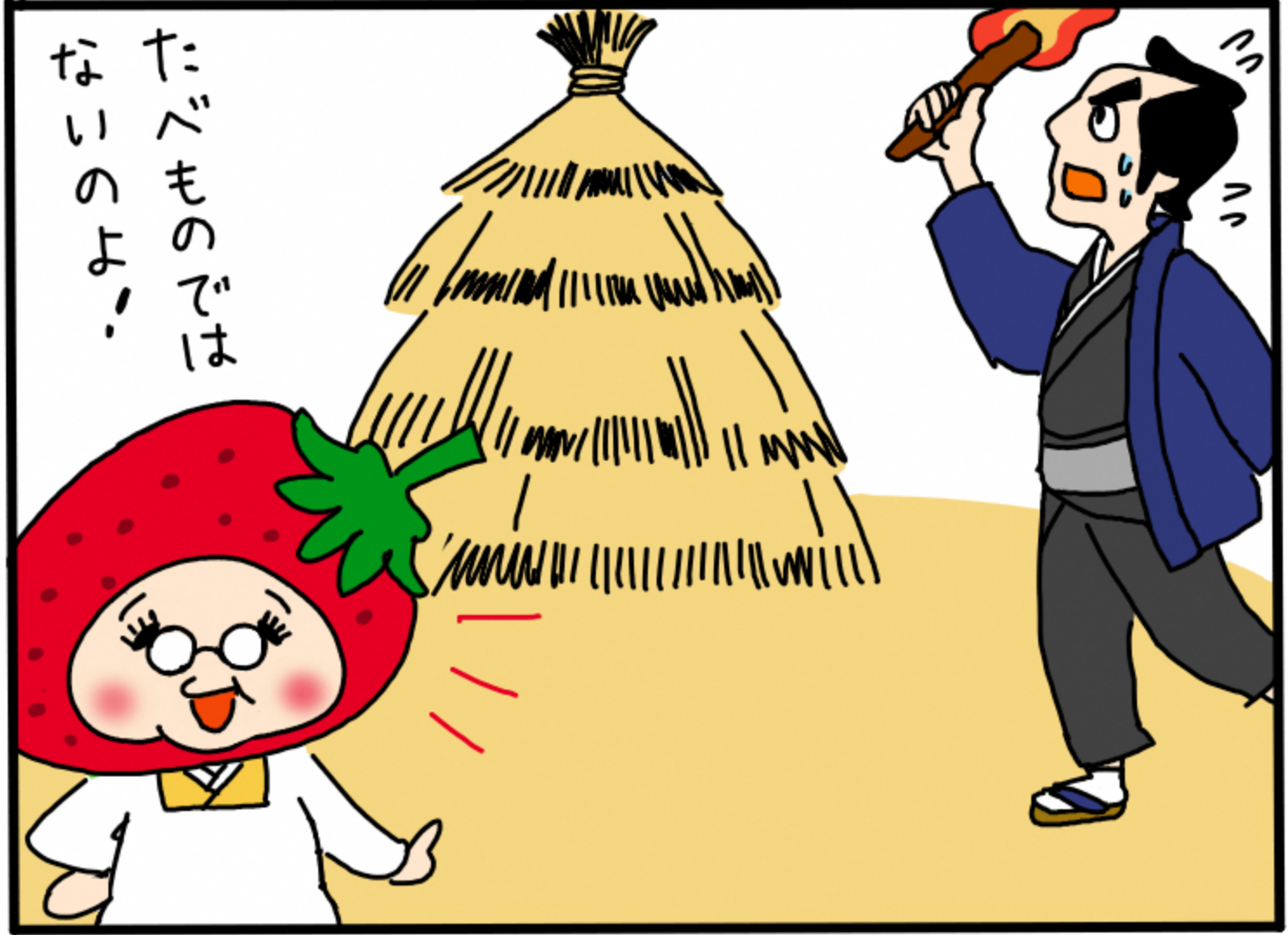
なるほどね～











たぶものでは...のよ...



